



## ③てんかん手術

2020年は27件を施行した。コロナウイルス感染症の直接的な影響は無く前年水準を維持した。海馬多切術、焦点切除術、後方離断術、脳梁離断術、迷走神経刺激装置植込術等が行われた。

## 2) 主な処置・検査

長時間ビデオ脳波モニタリング、神経心理検査、頭部MRI（機能MRI）、頭部CT、頭部3DCT、SPECT、PET、光トポグラフィー、脳血管造影検査

## 3) カンファレンス

## a) 脳神経外科内

月曜・水曜・金曜日 7時45分－9時 入院症例検討カンファレンス  
火曜 14時－17時 教授回診、術前術後症例検討、研究報告、抄読会

## b) 他部門との合同カンファレンス

てんかんセンターカンファレンス：毎月1回

## c) 他施設カンファランス（テレビ会議システムでのオブザーバー参加）

東京大学附属病院てんかんセンターカンファランス：毎月1回  
CREST（戦略的創造研究推進事業）多施設てんかん症例カンファランス：毎月1回

## d) その他

エピネット栃木 1回／年（例年は2回／年であるが、新型コロナウイルス感染対策のためWebで1回開催）

## e) カンファレンス症例数 約48例／年

## 4. 2021年の目標・事業計画等

当センターは厚生労働省のてんかん地域診療連携体制整備事業として全国8か所の地域連携拠点機関の1つに指定されている。設立から拠点病院の機能強化（ビデオ脳波モニタリングと手術の増加）、多職種・多科で他の医療機関にも開かれた定例症例検討会による医療連携と診療レベルの向上を行った。てんかんセンターとして、単科診療のみでは診断と治療が困難な症例に対する学際的な検討を推進することで診療レベルの一層の向上を図っていく。また栃木県内のみならず北関東エリアを包括した広域てんかん診療拠点として、より一層の診療の拡充と質の向上を図るとともに、既設のエピネット栃木などを引き続き最大限活用し圏内医療施設、行政との有機的な連携を強化していく計画である。

昨年度からの継続事業に加え、新規事業として、特定看護師養成（精神神経薬剤投与）、てんかんコーディネータ育成協力、CREST（戦略的創造研究推進事業）てんかん発作記録レジストリの作成などを行っていく。

ポストコロナに向けたさらなる診療レベルの拡充を図っており、今年度はてんかんセンターの指定する、より広域かつ高度な施設認定である包括的てんかんセンターへの申請も行っている。2023年には全国てんかんセンター協議会総会を当施設主幹で開催予定であり、それらを見据えたさらなる地域でのてんかん普及、啓発活動を進めていく。